

『ピア・サポートのきもちがあられる藤岡小』

藤枝市立藤岡小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	スタートのステージ ・くすのきっ子班顔合わせ ・1年生を迎える会	◎縦割り班の仲間の顔と名前を覚えよう ※人間関係づくりプログラム（出会い）	職員会議（人権） 就学支援委員会① 子供を語る会
5月	・運動会	◎行事を通して仲間と仲良くなろう	就学支援委員会②
6月	チャレンジのステージ ・代表委員会①・くすのきっ子遊び① ・児童集会① ・クラブ活動① ・西中生読み聞かせ①	◎遊びや読み聞かせを通して班の仲間と仲良くなろう ※人間関係作りプログラム（聴き方） （担任を交換して実施）	小中合同研修会 校内研修（ピア・サポート）
7月	・くすのきっ子読み聞かせ① ・クラブ活動②③ ・くすのきっ子遊び②	◎遊びや読み聞かせを通して班の仲間と仲良くなろう	就学支援委員会③ 小中合同研修会 職員会議（人権）
8月			特別支援教育研修会 SC研修
9月	・くすのきっ子読み聞かせ② ・クラブ活動④⑤	◎読み聞かせを通して班の仲間と仲良くなろう ※人間関係づくりプログラム（自己表現） （担任を交換して実施）	
10月	・代表委員会② ジャンプのステージ ・児童集会② ・自然教室（5年）	※人間関係づくりプログラム（対処・対応） （担任を交換して実施） ・緑の羽根募金（アルミ缶回収の収益で）	職員会議（人権）
11月	・くすのきっ子遊び③ ・くすのきっ子読み聞かせ③ ・西中生読み聞かせ② ・修学旅行（6年）	◎遊びや読み聞かせを通して班の仲間と仲良くなろう ・赤い羽根募金活動 ◎行事を通して仲間と仲良くなろう	小中合同研修会
12月	・くすのきっ子遊び④ ・校内音楽会	◎遊びを通して班の仲間と仲良くなろう ◎行事を通して仲間と仲良くなろう ※学校保健委員会（6年） ・ユニセフ募金（アルミ缶回収の収益で）	
1月	ありがとうのステージ ・代表委員会③ ・くすのきっ子読み聞かせ④	◎感謝の気持ちを伝えよう ・ユニセフ募金（アルミ缶回収の収益で）	
2月	・くすのきっ子遊び⑤	◎感謝の気持ちを伝えよう ・ユニセフ募金（アルミ缶回収の収益で）	就学支援委員会④ 職員会議（人権）
3月	ありがとう6年生の会	◎感謝の気持ちを伝えよう	

ピア・サポート見つけ

1 本校のピア・サポート

本校では重点目標を「自分で、自分から、よりよく判断して行動しよう!」としている。子どもたちに示している「くすのきっ子のめあて」では、振り返りの6つの視点の1つに「ピア・サポートの心を大切にします」を取り入れ、仲間と互いに支え合って生活することを日常生活の中で意識できるようにしている。また、創立当初からの取組である縦割り活動「くすのきっ子活動」は本校の伝統であり宝である。活動の中で子どもたちが自分で、自分から、物事に取り組む姿勢を大切に、ピア・サポート活動に取り組んできた。

2 本年度の取組

(1) 授業について

「自分で自分から学び、高め合う子」の研修テーマで授業づくりに取り組んでいる。高学年の授業では、友達が資料を用いて発表したことを受け、同じ題材について更にタブレットで調べ、みんなに調べたことを伝えようとする姿や、友達が発表で言いたかった意図を言葉を変えて、まだ理解していない友達に分かりやすく説明しようとする姿が見られた。低学年の授業では、友達の方を見て聞く姿や、友達がどこまで分かっているか確認しながら話す温かな姿が見られた。

(2) 特徴的な活動

① くすのきっ子活動【提言1、4、5、6】

年間を通して、「くすのきっ子班」での縦割り活動に取り組んでいる。「くすのきっ子遊び」や「くすのきっ子読み聞かせ」の計画や運営を3年生以上の児童が交代で担当し、みんなで楽しく交流する活動である。くすのきっ子遊びでは、低学年の児童でも分かりやすいようにルールを簡単な物に変更したり、高学年が低学年のサポートに入るなど、ピア・サポートを行う場面が頻繁に見られた。くすのきっ子読み聞かせでも、選書の段階からどの本が興味を惹きやすいか考え、当日に向けて熱心に読み聞かせの練習をする様子が見られた。また、6年生以外が担当する時には6年生がアドバイスをしたり、当日の運営をサポートしたりする様子が見られた。ここで得た関係は、くすのきっ子活動に留まらず、学年の枠を超えて休み時間に一緒に遊ぶ姿や、1年生の初めての行事の時に上級生が自然とサポートする姿にも、繋がっている。

② 「ピア・サポート見つけ」【提言3、6、7】

福祉委員会が主体となり、ピア・サポートについて児童集会の場で劇を用いて全校に伝え、その後ピア・サポート見つけに取り組んだ。自分の見つけたピア・サポートをカードに書いたものを、ポストのミッケ君に投函してもらい、福祉委員が給食時に放送したり、校内に掲示したりして、全校にピア・サポートの輪を広げる取り組みである。給食時のピア・サポートニュースでは、クラスの友達の名前が呼ばれると喜ぶ児童や放送で自分のカードを読んで欲しいと積極的にピア・サポートカードを投函する児童の姿が見られる。時には教師がカードが紹介されることもあり、児童の良い関わりを価値づける場としても機能している。

③ 担任シャッフルによる、人間関係プログラムの実施【提言1、4、5】

担任を入れ替えての、人間関係作りプログラムを行った。普段関わることの少ない学年の児童と授業を行うことで、担任間で情報を共有し、担任とは別の視点から児童の良さを発見することができ、児童理解が深まった。児童にとっては、担任以外で相談できる大人との出会いとなり、また多様な価値観に触れたり、担任以外から認めたりする良い機会となった。

3 本年度の成果と来年度に向けて

本校の伝統であるくすのきっ子活動を核として、異学年での自然な関わりが遊びや行事、普段の生活の中でも多く見られた。児童のこうした良い関わりを、次年度も引き継いでいきたい。福祉委員会によるピア・サポート見つけでは、自然なピア・サポートのかかわりが見られ、子ども達が昼の放送を楽しみにしている様子が見られる。来年度は教職員が行事や生活場面でピア・サポートの視点を示し、ピア・サポートへの意識を更に高めていきたい。また場を捉えて子どもたちの良さを価値づけ認めることで、子ども自身が自分の良さに気づく機会としていきたい。